
魔砲使い転生

1億36度

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

をもらってネギまに転生する話です。

作者には文才が欠片もありませんが生温かい目で読んでください。
感想はあまりキツイのは止めてください。

転生？喜んで ただチートは下さい。(前書き)

生温かい目で見て下さい。

転生？喜んでただチートは下さい。

シリシリシリシリ！

ガシャー！！

「眠い・・・もう一回寝よう」

「これ、おきなさい、これ、おきなさい」

ううん、誰だよ俺起こすなんて家は両親他界してるから誰も居ないと思うんだが。

「むむ、しぶとい、こうなれば最終手段じゃパラッパッパース
タンガン〜」

「まてい！！」

不穏な発言を聞いて俺は飛び起きた、目の前にはスタンガン片手に持った、ダブルドア

「おお、起きたか」

「誰だ！爺さん心臓止まるかと思ったぞ！！」

マジで止まるかと思ったわ！

なんだ、人起こすのにスタンガンって！

「まあまあ、落ちつけ青年よ」 バチチチツ

「落ちつけるか！！」つかスタンガンしまえや！」

それ、起こす目的で出したんじゃないのかよ！

「おお、そうじゃったそうじゃった」

そう言いつつスタンガンをしまうダンブルドア。

「で、お宅誰？」

「わし？わしは神じゃ」

「爺さんポケが進行していたんだな、うんうん大丈夫だ病院に行こう、付き添ってやるから」

「ええっわしポケてないんじゃないが」

「じゃあ素で言ってるのか」

「うむ、わしは神じゃ」

「精神が逝っちゃてんのかな？」

「ぬお、もっとひどくなってる」

「よし、爺さん俺が病院に「そおい！」バチチチ、ぎゃあああ！」

「痛ってええー、爺さん何するんだ！」

スタンガン本気で当てたよ、この神！。

「お主と話しておると無限ループに陥りそうじゃから、わしが一人で話させてもらうぞ、まず最初にお主は死んだ、でそれを偶々わしが見ていた、それでお主転生してみんか？という訳じゃ、何か質問は？」

「マジで？」

「おおマジじゃ」

「神とはあなたの事ですか」

「最初から言っとるじゃろっ」

「チートくれるのか？」

「まあ、あんまりだったらわしが止めるがな」

じゃあ、チート過ぎないチートだったらいいのか。

「それじゃ神様、魔砲使い黒姫の技量をくれ、んで魔力を使わなくても魔砲弾が作れるようにしてくれ、それと断罪者^{ジャッジメント}を追尾なし能力で速射技能と弾数無限にしてくれ、それとトライピースのベリアルさんの肉体スペックをくれ」

「ふむ良いじゃろう、おまけで劣化しないようにしてやるわい、肉体も技量もな」

「マジか、ありがとう神様」

「容姿はどうするかの」

「それはどうでもいい。」

「ふむ、ではこちらで決めよう。」

ズドンッ

「うおっ」

後から音がしたので慌てて振り向くとデカイ扉があった。

ギギギー

「転生先は干涉出来んからランダムじゃ、何処に行くかはわしもわからん、では行って来い」

「ああ、言ってくる」

俺は門を通る、中は真っ暗で光の道が一本あるだけだった。

「これを通ればいいんだな」

しばらく歩いていると光の道の終わりが見えた、潜り抜けると意識が飛んだ。

「良かったですね、元気な赤ちゃんですよ」

「ああ、私の可愛い子」

こうして俺の第二の人生が始まった。

主人公ステータス

主人公ステータス

筋力 A++

俊敏 B

耐久 C

魔力 D

幸運 B

宝具

ジャッチメント
断罪者 A

神様からもらった、クロス・マリアンのジャッジメントの断罪者の形をした、魔砲銃、神様に頼んで弾数無限と連射技能をもらった。

ウォークキャッスル
歩く城塞 A

神様が勝手に付けた物、インデックスの歩く教会を改造したものの真名解放した時の防御力はローアイアスと同程度、真名解放していない時は教会一つ分、見た目はステイル・マグネスの服。

復讐の大剣 グレンデル A++

これも神様が勝手につけた武具、真名解放すると黒い閃光を放つ、
威力的にはセイバーのエクスカリバーと同程度。

財宝の門 B

右手の平に菱形の中に菱形が入ったマークがある、そこに力を入れ
ると武具が装着される、普通の物でも収納可能。

スキル

高速魔砲弾作成 A++

文字どおり黒姫の技量を得た事によって出来たスキル、使用頻度が
高いと龍の魔砲弾すら練成陣を書く必要が無くなる。

戦闘続行 A

瀕死でも戦闘を続ける能力、クーファー・リンの様に戦闘の仕方が由
来になったのではなくて、朝起きない、しぶとさから神様が付けた。

我衰える事なし A

肉体も技量も衰えない能力、肉体は22歳で老いが止まり、一年間

動かなくても筋力なども衰えない。

黄金律 B

小金持ち程度になら働かなくてもなれる。

容姿はステイル・マグネスの赤髪じゃなく黒髪、刺青もピアスもしていない。

主人公ステータス（後書き）

ちなみにステイルさんの容姿になった理由は断罪者 持ち主クロス・マリアン 不良神父 ステイル・マグネスという連想ゲームでなりました。

装一弾（前書き）

主人公の名前は柊・戒ひいらぎ・かいです。

装一弾

どうも、現在孤児院にいます、どうして孤児院に居るのかつて？

それは俺が産まれてから1年位たった時に、俺の両親が俺を連れて行ったデパートで起きたテロに巻き込まれて死んでしまったらしい、断言できないのは、産まれてから一瞬だけ意識があったがそれから無くなって5年たった先週にまた目覚めたんだ、だから断言できない。

あつ、ちなみに意識が出来たと同時に能力の使い方もここが何処の世界なのかも全部わかったんだ、色々頼んでない物が入っていたのには驚いたけどな。

「戒君くお客さんよ〜」

「わかった、園長先生、今行くー」

それに両親がいなくなったのは悲しいけど孤児院の皆や先生たちのお陰で全然さびしくないしね。

「んで、園長先生誰が来たのさ？」

「あなたを引き取りたい、って言ってる人がいた事は一か月位前に言ってたわよね？」

「覚えてない」

「即答!？」

だって、俺一週間くらい前からの記憶しかないから覚えてないし

「15回も話したのに、まあいいわ、その人が来たのよ」

「なるほど」

しかし俺よ、十五回も聞き返すつてもはや嫌がらせの域だな。

「それで、会ってくれる？」

「了解、会ってみる」

それで現在俺を引き取りたいと思っている人の前、その人が口を開いて。

「唐突だけど僕の息子になる気はあるかな？」

「あります!!」

「「即答!?!」」

「だってこの人、良い人そうなんだもん」

「そんな理由で!?!」

うわっ 園長先生ひで〜俺の一秒で考えた理由をばかにしやがった

「いや、でもいいのかい？」

「えっ悪いの？」

「いや、僕としては良いんだけど」

「それじゃ良いじゃないですか」

「ささ、園長先生は放っておいて、まず自己紹介から始めましょう」

「まず僕から言いますね、僕は柎戒つひのせいかいといます、趣味は読書で、好きな物はチャーハンで嫌いな物はゴーヤです」

「ええーと僕は藤堂 真まことつて言うんだ、趣味は音楽鑑賞、好きな物は焼肉、嫌いな物はシイタケかな」

「それじゃ、よろしくお願いします」

それから園長先生が割り込んで来て書類やらなんやらの細々したあと、真さんと家に帰った。

以外にも真さんの家が豪邸だったのは驚いた、それと真さんは麻帆良の教員だそうだ、この家からして夜の警備員もしているんだろう。ちなみに俺を自分の息子にしたのは寂しかったからだそうだ、でも真剣に息子として君を愛すよと言っていた。

そして明日から俺は麻帆良幼稚園に転入することになった。

装一弾（後書き）

次回から幼稚園の話飛ばして小学校の話にいきます。

真さんの外見はコードギアスの朝比奈さんです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4747z/>

魔砲使い転生

2011年12月18日00時50分発行